



えんぴつ つく 鉛筆はどうやって作るの

えんぴつ つく 鉛筆のしんを作る

えんぴつ ほそなが き ぼう なか はい はじ えんぴつ
鉛筆は、細長い木の棒の中に、しんが入ってできています。初めに、鉛筆のしんについて、
せつめい
説明します。

えんぴつ げんりょう こくえん こくえん せきぼく たんそ こうぶつ ちちゅう
鉛筆のしんの原料は、おもに黒鉛です。黒鉛(石墨)は炭素のなかまで、鉱物として、地中
からほりだします。また、こうじょうでも、たくさんつくられています。

えんぴつ こくえん ど つく こくえん ど こな みず くわ ね
鉛筆のしんは、黒鉛とねん土から作ります。黒鉛とねん土を粉にして、水を加えて練りま
す。練ったものをきかいでしんのかたちにし、それをかわかし、やかたつく
す。練ったものを機械でしんの形にし、それをかわかし、焼き固めて作ります。

いた い 板のみぞにしんを入れる

えんぴつ つく ほそなが まい いた たて ほそ なが
鉛筆を作るには、細長い1枚の板に、縦に、はばが1ミリメートルぐらいの、細くて長い
みぞをつけ、そのなか、えんぴつ
みぞをつけ、その中に、鉛筆のしんをはめこみます。そして、おなじようにみぞをつけたいた
のせて、じょうげ いた せつちやくざい あ
のせて、上下の板を、接着剤ではり合わせます。

あ いた ろっかくけい まる かたち えんぴつ ほん き
はり合わされた板は、六角形や丸い形にけずられ、鉛筆として、1本ずつ切りはなされ
ていきます。その後、まわりがみがかれ、いろ もじ
ていきます。その後、まわりがみがかれ、色や文字がつけられて、できあがります。

(監修・青木 国夫)

鉛筆のできるまで

